

稲・大豆作情報（NO. 10）

1. 水稲作況情報田の生育概況（8月31日現在）

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 17.5株/㎡	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月20日 (平年より4日遅い)				8月5半旬も猛暑が続き、 気温・日照時間とも平年 を上回った。「ヒヨクモ チ」の出葉数は平年より 少ない。 夢しずく： 乳熟期～糊熟期 さがびより：出穂期 ヒヨクモチ： 幼穂形成期～穂孕み期
さがびより 小城市芦刈町	6/22 16.1株/㎡	本 年 平 年 平年比	出穂期 8月30日 (平年より1日早い)				
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/1 18.5株/㎡	本 年 平 年 平年比	75.1 80.9 (93)	507 487 (104)	15.3 16.3 (-1.0)	41.8 37.4 (112)	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

気象情報に注意し、圃場管理を行う。

台風時の水管理は【接近時：深水管理 → 通過後：水入れ替え】を実施する。

また、地域によってはトビイロウンカの増殖（坪枯れ）が確認されているため、田廻り、適正防除を励行する。

※海水の流入や潮風害を受けた場合

直ちに排水し真水と入れ替える。その後、掛け流しまたは少なくとも2～3回は水を入れ替え除塩し、生育の回復に努める。

※台風通過後は受光体勢が乱れ、病害虫が発生する可能性があるため、田廻りを励行し、早期発見に努める。

○今週の管理

【夢しずく】

- ・乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・強風による登熟阻害（乳白米の増加、充実不足など）を軽減するため、深水にして水稻を保護する。通過後は、間断灌水に切り替える。
- ・土壌が白く乾燥した圃場が一部でみられる。水管理を徹底し、早期落水防止に努める。

【ヒノヒカリ、さがびより】

- ・出穂期を迎えている。
- ・強風による稔実阻害（不稔、白穂など）や登熟阻害（粃ズレによる雑菌の感染など）が懸念される。稲体の振動を少なくするため、深水管理をおこなう。通過後は、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

【ヒヨクモチ】

- ・ 幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。
- ・ 深水にして強風による稲体振動を少なくする。
- ・ 通過後は、要水量が最も多い時期（穂孕み期～出穂期頃）となるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。
- ・ 追肥は下記表を基に施用する。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月18～21日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月28～31日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月13日～16日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※高温がつづき稲体の消耗が激しい状況である。全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期にSPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20kg/10a）施用する。

○病害虫情報（発生および防除）

◆トビイロウンカ

- ・ ピラキサルト以外の箱施用剤や箱施用剤なしの圃場で、坪枯れの発生が散見されている。
- ・ また、圃場により、かなりの発生バラつきがある。ピラキサルトを使用した圃場でも増加しているため、必ず圃場の発生状況を確認し、増殖がみられた場合は防除を行う。
- ・ 本年は発生株率が平年より高く、一部圃場では発生が急激に増加しており、今後減収等の被害を生じる恐れが高まっている（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第5号）。
- ・ 必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。（各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため）
※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。
農技防 HP 参照：病害虫情報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

◆コブノメイガ

- ・ 今年は、飛来波が多く、一度の防除では発生を抑えきれず、食害株率が平年より高い。
- ・ 発蛾最盛期7日後の幼虫ふ化揃い期（発生予測図2の赤枠）の防除効果が高いため、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、適期防除を実施する。
- ・ 9月の発生量は、多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第5号）。
農技防 HP 参照：発生予察予報：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00373814/index.html>

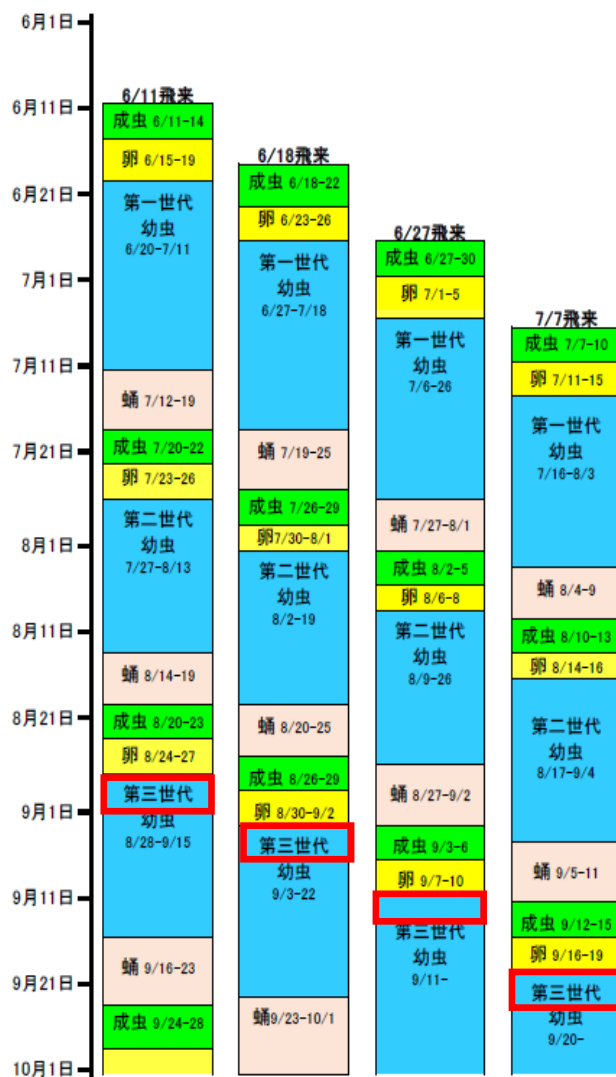
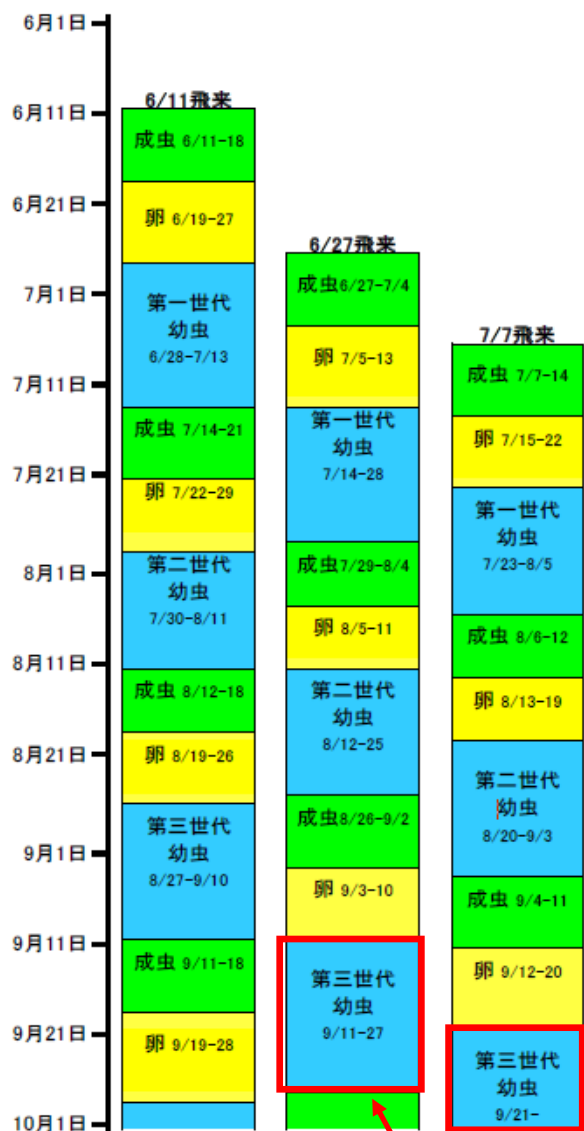


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第6版、2020年8月19日作成)

図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第6版、2020年8月19日作成)

ウンカの増殖に応じ、臨機防除

◆斑点米カメムシ類

- ・9月の発生量は、多い予測である(農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第5号)。
- ・多発生時は穂揃い期とその7~10日後に薬剤防除を行う。それ以外は、乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に薬剤防除を行う。
- ・農薬の散布は、カメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

◆いもち病

- ・9月の穂いもち発生量は、平年並みの予測であるが（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第5号）、一部の圃場で多発生を確認している。
- ・葉いもちの発生がみられる圃場は、穂ばらみ期～出穂期を中心に防除を実施する。さらに、上位3葉に病斑が確認される場合は、穂揃い期にも薬剤防除を行う。

◆紋枯病

- ・9月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病害虫発生予察予報第5号）。
- ・田回りを励行し、病斑が上位3葉の葉鞘にみられる場合はバリダシン液剤(収穫14日前まで)等で直ちに防除を行う。



▲いもち病（農業技術防除センターより）



▲紋枯病

◆粃枯細菌病

- ・中晩生品種（さがびより・ヒヨクモチ等）において、強風の粃ズレ等により菌が感染し、台風通過後に曇天が続く場合は、粃枯細菌病等の穂枯れが発生しやすくなるため、出穂期の防除をスターナ等で実施する。

3. 大豆管理

台風接近で降雨量が多くなれば、浸冠水が想定されるため、排水整備を徹底する。
7月中旬に播種した圃場で、8月26日頃に開花期となっている。
8月初旬に播種した圃場では、本葉1～4葉が展開中である。

※有明沿岸地域では潮風による塩害の恐れがある。

潮風を受け、台風通過後に降雨がない場合は、散水し塩分除去をおこなう。

○排水対策

台風が接近しており、局地的なゲリラ豪雨に備えるため、排水溝の整備を行い、排水口への確実な誘導を図る。リターンデッチャや畔塗り機で施工した額縁明渠についても確実に繋がっているか確認を行う。

○培土

雑草防除や発根・根粒形成促進のため、以下目安を参考に培土を実施する。

【実施時期の目安】

1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。

2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



子葉

1回目の培土時期の目安

○雑草防除

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

※7月中旬に播種した圃場は、開花期を迎えているため、大豆バサグランの全面散布しない。

○病虫害防除

ハスモンヨトウ

- ・9月の発生量は、やや多い予測である（農業技術防除センターの病虫害発生予察予報第5号）。圃場巡回を励行し、発生状況に注意し白変葉が見られた場合は防除を行う。

マメハンミョウ

一部の圃場で、局地的に発生し加害がみられる。早期発見に努めスポット的に薬剤散布する（マラソン、スミチオン乳剤等）。

令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

